

検討事項について～第1回検討委員会の意見を踏まえて～

- **特別支援学校における食に関する指導について（給食の教育上の意義）**
【ゴール】明確な方針のもと、給食を通して適切な指導・支援ができるようになる

- ・ 食に関する指導及び食育の視点を再整理する。
（知的障がい特別支援学校も含む）

- **校内体制づくり**

- 【ゴール】教職員と保護者が共通認識をもち、子どもに適した指導・支援ができるようになる

- ・ 形態食の提供の意義を踏まえて学校における体制づくりを行う。
- ・ 職員、保護者間での共通理解と実践を目的とし、給食に係る研修等を実施する。（教職員・PTA）

- **実態把握・機能評価**

- 【ゴール】共通した評価項目に基づき、個々に適した目標設定・給食提供・摂食指導ができるようになる

- ・ 教職員における食事支援の標準化を図るため、共通様式を作成する。
- ・ 児童生徒に適した形態食を提供するため、専門家と連携し、校内委員会等で検討する仕組みや機能評価体制を確立する。

- **形態食の提供**

- 【ゴール】個々の食べる機能に合った美味しい給食が提供できるようになる

- ・ 先駆的に実施している他都市の状況やSTの意見等も反映し、形態食の試作を行う。
- ・ 委託業者と調理工程の検討を行う。
- ・ 給食物資の見直しを行う。
- ・ 保護者へ試食を伴う説明会を開催する。

特別支援学校における食に関する指導について（案）

1 経緯

学校給食は、学校給食法に基づき、児童生徒の心身の健全な発達をめざすとともに、食に関する正しい理解と適切な判断力を養うため、「生きた教材」として食に関する指導を行い、学校における食育の推進を図ることを目的として実施している。しかしながら、特別支援学校では、摂食や嚥下など食べることに関する機能的な課題を有する児童生徒も多く、食育を推進するにあたっては、小学校や中学校における食に関する指導の目標に加えて、安全面を第一に、食べる機能の発達を促すことや機能を保持することをめざして指導や支援を行うことも重要となる。

そこで、「食に関する指導の手引き（第2次改訂版）」の「六つの食育の視点」に基づき、給食時間等において自立活動の視点を加味して指導を行うとともに、特別支援学校における食育が推進できるよう食育の視点について再整理するものとする。

2 施行日

令和3年4月1日

3 食育の視点について

○食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。【食事の重要性】

- ・豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためには食が大切であることを理解できるようにする。そのためにも給食時間が楽しく、喜びを感じることができる時間となるよう食環境を整え、やすらぎのある落ち着いた雰囲気づくりを行う。
- ・食事には空腹感を満たしたり、気持ちを鎮めたりする働きがあること、教職員や仲間との食事や食味のよさは心を豊かにすることなどを理解し、情緒面の発達にもつなげることができるようにする。
- ・児童生徒が発達段階や個々の食べる機能にあった食事をすることは、成就感が得られ食べる意欲にもつながる。食べる意欲は、味覚の発達や食べ物にあった口の動かし方のほか、自ら手を伸ばすなど運動面の発達を促すことも考えられるため、食形態や食器を工夫しながら、個々の障がいに応じた摂食指導を行う。

○心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。【心身の健康】

- ・好き嫌いをできるだけ減らし、食べることができる食材の幅を広げ、栄養バランスのよい食事について意識できるようにする。
- ・適量を口に入れよく噛むこと、飲み込むこと、よい姿勢で食べることなど、食事に必要な基本的な技能を身に付けるようにする。

○正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断できる能

力を身に付ける。【食品を選択する能力】

- ・障がいのある児童生徒が、将来自立し、社会参加するための基盤として、自らの健康を考え、自己管理をする力や食品の安全性等を自ら判断する力などを身に付けるようにする。
- ・学校給食の献立の名前や食材の栄養素、特性について学び、食に関する情報について関心を持つことができるようにする。
- ・食事の準備や片付けを通して、手を洗う、こぼさないように運ぶ、熱いものは気をつける、こぼした時はふくなど、安全や衛生について、どういった点に気をつけることが必要か考えることができるようにする。

○食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。【感謝の心】

- ・食料の生産は、自然の恩恵の上に成り立っていること、食生活は生産者等の苦労や努力に支えられていること、食べ物は、動植物の命を受け継ぐことであることを理解し、食事のあいさつで感謝の気持ちを表現できるようにする。

○食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。【社会性】

- ・はしの使い方、食器の並べ方、食器を持って食べる、話題の選び方、そしゃく音をたてないなどのマナーを身に付けることができるようにする。
- ・食事の準備や後片付けを協力して行い、相手を思いやることに気づき、食事は大切なコミュニケーションの場であることを理解できるようにする。

○各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。【食文化】

- ・学校給食を通して、自分たちの住む地域や日本各地の郷土料理や行事食、季節の料理などを知り、日常の食事は地域の農産物と関連していることを理解できるようにする。

4 自立活動の指導と食に関する指導との関連について

特別支援学校において、自立活動の指導と関連を図った食に関する指導を進めるに当たっては、食に関する指導の内容と自立活動の内容との関連を明確にしておくことが大切になる。そこで、自立活動の内容のうち食に関する指導の内容と関連のある項目について例示する。

* 囲いの中の各項目の数字は、学習指導要領「第7章 自立活動」の「第2内容」の項目番号と一致

自立活動の内容		食事に関する指導内容例
1 健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭との連携や家庭への啓発等を行い、基礎的な生活リズムが身に付くようにする。 ・ 自分の病気や体調を理解して、食事をとることができるようにする。
2 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> (1) 情緒の安定に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や教職員等支援者と一緒に、やすらぎのある落ち着いた雰囲気ですべてをとることができるようにする。 ・ 食に関する様々な困難を、自分の力で克服・改善し得たという成就感がもてるようにする。
3 人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> (1) 他者との関わりの基礎に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のマナーを身に付け、食事を通じた人間関係形成能力を身に付けることができるようにする。 ・ 友達や教職員等支援者とじっくり関わるができる場面である給食時間に、対人関係を広げ、信頼関係を築くことができるようにする。 ・ 給食当番の仕事を行い、自分の役割を果たすことができるようにする。
4 環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保有する感覚の活用に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階や個々の食べる機能にあった食事をする事で、児童生徒が保有する、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚を十分に活用できるようにする。 ・ 学校給食を通して、様々なにおいや味を体験したり、その体験した味やにおいを言葉や表情などで表現したりできるようにする。 ・ 給食の食材の属性、形、色、大きさ、食感、量、味などの概念の形成を図り、認知や行動の手掛かりとして活用できるようにする。
5 身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よく噛むこと、よい姿勢で食べること、適量を口に入れ飲み込むことができるようにする。 ・ 目的や用途に応じて適切な食器や補助用具を選び、児童生徒が活用できるようにする。 ・ パンをちぎって食べるなど、手や指を使って食事をとることができるようにする。
6 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や教職員等支援者とコミュニケーションをとりながら、食事をとることができるようにする。 ・ 自分の気持ちや、「おかわり」「減らしたい」など要求を相手に分かるように伝えることができるようにする。

5 個別的な相談指導について

特に特別支援学校においては、集団での対応では適切な指導が困難なケースが生じることが想定される。食に関する健康課題を有する児童生徒に対して、関係する教職員が共通理解を図り、保護者と連携して個別相談指導を実施する。その際は、対象となる個人の身体状況、栄養状態や食生活など総合的に評価、判定し、家庭や地域の背景、児童生徒の食に関する知識・理解度等を考慮して指導に当たるようにする。

(1) 食物アレルギー及び疾病等で食事や食材に制限がある場合

保護者提出の学校生活管理指導表に基づき、原則として毎学年のはじめ（転入時）に関係教職員で保護者との面談を行い、学校内での対応について検討する。なお、食物アレルギー対応については、「学校（園）におけるアレルギー等疾患対応マニュアル」を参考に実施すること。

(2) 形態食について

- ①児童生徒の実態把握を行う。
- ②必要に応じて外部の専門家や保護者等と連携を図り、学校内組織において、児童生徒の実態に適した食形態になるよう、食べる機能の発達段階における観点別の評価を行い、協議、検討し対応を決定する。

【肢体不自由特別支援学校用様式】

- ・食に関する実態表
- ・食べる機能の発達段階チェック表

(3) その他健康課題等

健康診断等各種調査、教職員による観察、家庭における食生活の状況等を踏まえ、個別的な相談指導が必要な対象者の抽出を行い、指導方針や指導内容を検討し課題解決に当たる。(PDCA サイクルに基づく指導)

【引用】

- ・文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説 平成 21 年 6 月
- ・文部科学省：食に関する指導の手引き―第二次改訂版― 平成 31 年 3 月
- ・文部科学省：栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育
～チーム学校で取り組む食育推進 PDCA～ 平成 29 年 3 月

食に関する実態表

(R3.2.9 改訂)

児童生徒氏名 () 診断名 ()

記入日 (R 年 月 日) 記入者 ()

身体 の 状 況	頭部	<input type="checkbox"/> 定頸 ^{*1} <input type="checkbox"/> 未定頸 ^{*1} <input type="checkbox"/> 正中位保持 ^{*2} <input type="checkbox"/> 前屈 <input type="checkbox"/> 後屈 <input type="checkbox"/> 左側屈 <input type="checkbox"/> 右側屈 <input type="checkbox"/> 左回旋 <input type="checkbox"/> 右回旋		
	体幹	<input type="checkbox"/> 脊柱伸展 ^{*3} <input type="checkbox"/> 後弯 <input type="checkbox"/> 左側屈 <input type="checkbox"/> 右側屈		
	姿勢	<input type="checkbox"/> リクライニング 【角度：床から () 度位】 <input type="checkbox"/> 直角いす ^{*4} <input type="checkbox"/> 抱っこ	装具	<input type="checkbox"/> 下肢装具 (SLB 等) <input type="checkbox"/> 手の装具 <input type="checkbox"/> 体幹装具 (DSB 等) <input type="checkbox"/> その他 ()
	緊張	摂食を妨げるような筋緊張 ^{*5} (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) 【状態： _____】		
	痰	・痰の状態 (<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 少ない <input type="checkbox"/> 多い) ・食事中に痰が増える (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし)		
	介助	<input type="checkbox"/> 介助食べ <input type="checkbox"/> 部分介助 <input type="checkbox"/> 自立		
	その他	・口腔周辺過敏性 ^{*6} (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) ・食欲 (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) ・偏食 (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) 【嫌いな物 () 好きな物 ()】 ・集中力 (<input type="checkbox"/> 持続する <input type="checkbox"/> 持続しない) ・流涎 ^{*7} (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) ・スプーンの噛みこみ (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) ・嘔吐 ^{*8} (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) どのような時【 _____】 ・アレルギー (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) アレルギー食材【 _____】 ・バンゲード ^{*9} 等の実施 (<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし)		
使用 用 具	介助	<input type="checkbox"/> 通常のコップ <input type="checkbox"/> カットコップ ^{*10} <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> ストロー付きのボトルなど ^{*11} <input type="checkbox"/> 給食スプーン <input type="checkbox"/> シリコンスプーン <input type="checkbox"/> その他 ()		
	自食	<input type="checkbox"/> 通常のコップ <input type="checkbox"/> ストロー <input type="checkbox"/> 箸 <input type="checkbox"/> 訓練用の箸 <input type="checkbox"/> 子ども用スプーン <input type="checkbox"/> シリコンスプーン <input type="checkbox"/> 特殊スプーン ^{*12} <input type="checkbox"/> 給食用食器 <input type="checkbox"/> ガード皿等特製食器 ^{*13} <input type="checkbox"/> 食器用のホルダー等 <input type="checkbox"/> その他 ()		
摂食 動 作	・手づかみができる ^{*14} (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・指でつまむ (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・スプーンを握る (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) 【 <input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左 <input type="checkbox"/> 両方】 【握り方：(<input type="checkbox"/> 上手握り <input type="checkbox"/> 下手握り <input type="checkbox"/> 三指握り)】 ^{*15.16.17} ・スプーンを持ち続ける (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・スプーンですくう (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・スプーンを口に運ぶ (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・スプーンから取り込む (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・スプーンを口から抜く (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・箸を使う (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・コップを持つ (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) 【 <input type="checkbox"/> 両手 <input type="checkbox"/> 片手】 ・コップを持ち続ける (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・こぼさずに飲む (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・コップを置いて離す (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない) ・ストローで吸う (<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない)			

<p>身体 の 状 況</p>	<p>※1 定顎・未定顎…首が座っているかどうか。 ※2 正中位保持…頭が正面を向いて保持できる。ヘッドレストに頭のをせ正面を向くことができればOK。 ※3 脊柱伸展…いすに座った状態で、背骨が無理なく伸びているかをチェック。ベルトをつけた状態でもOK。著しい側弯等がある場合はチェックがつかない。 ※4 直角いす…角度を変える機構がついていない座位保持装置や児童生徒いすのこと。 ※5 摂食を妨げるような筋緊張…緊張で口が開かなかつたり、食べ進めると緊張が強くなつたりするなど食べることに支障が出るような緊張があるかどうか。 ※6 口腔周辺過敏性…口の周りを触られることを極端に嫌がること。 ※7 流延…よだれ ※8 嘔吐…どのような状況で嘔吐があるかを【 】内に記入する。 ※9 バンゲード…唇、頬など口腔内外をマッサージする手法。</p>						
<p>使用 用 具</p>	<p>※10 カットコップ…片側が斜めにカットしてあるコップ。 ※11 ストロー付きのボトル…ストローマグや、介助で飲ませるための軟性のボトルも含む。 ※12 特殊スプーン…樹脂などでグリップ部分を手作りしたものや曲げたものなど、食べやすくする工夫がなされたものなど。 ※13 ガード皿…すくいやすいように「かえし」がついた食器</p>						
<p>摂 食 動 作</p>	<p>※14 手づかみができる…パンなど手に持って食べることができるか。 ※15 上手握り…掌を下に向けた握り方。前腕は回内する。 ※16 下手握り…掌を上に向けた握り方。前腕は回外する。 ※17 三指握り…鉛筆を持つような握り方。いわゆる一般的な持ち方。</p>						
<p>口 腔 内 の 動 き</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="180 1081 252 1317"> <p>捕 食 時</p> </td> <td data-bbox="252 1081 1506 1317"> <p>※18 スプーンが近づくと口を開ける…唇を触るなど働きかけないと開けない場合は「できない」にチェック。 ※19 取り込みの際口を閉じる…上唇と下唇を使って捕食できるか。 ※20 下唇でコップの縁を支える…コップの縁が歯列より奥に行かず下唇で支えられるか。 ※21 中間位保持…食べ物の大きさに合わせて口を開けたまま保持できるか。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="180 1317 252 1704"> <p>咀 嚼 時</p> </td> <td data-bbox="252 1317 1506 1704"> <p>※22 (回旋運動) …口の中に取り込んだ食べ物を臼歯に運ぶ動き。または、飲み込む前に食べ物を舌の中央部に移す動き。 ※23 (左右運動) …食べ物がある側の臼歯部へ舌が寄っていくような動き。 ※24 吸啜様(きゅうてつよう) …おっぱいを吸う(口の中を陰圧にして吸う)ような動き。 ※25 舌の先端が挙上する…水分が口の中に入った際、舌の先端を上前歯の裏につける動き。これができない場合は正常な嚥下につながらないため、嚥下後に水分が残ったり外へ流れ出たりする。 ※26 蝶番運動…そしゃく時の下顎の上下運動。 ※27 臼磨運動…臼歯で食べ物をすりつぶす下顎の動き。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="180 1704 252 1809"> <p>嚥 下 時</p> </td> <td data-bbox="252 1704 1506 1809"> <p>※28 舌根部が挙上する…嚥下の際、舌の一番奥の部分(舌根)が持ち上がる動き。喉ぼとけが動くことで確認できる。</p> </td> </tr> </table> <p>※29 舌突出を伴った前後運動…舌が歯列を越えて突出する場合や舌が突出するような前後運動が見られる場合はチェックする。舌が口腔内に収まった状態での前後運動は含まない。 ※30 たまに…給食中に1, 2回程度 ※33 頻繁…給食中に10回以上 ※32 固形物…評価した際の主菜(献立表の上段のおかず)名を記入。(例: かけそば・和風スパゲティなど) ※33 水分…評価した際の水分の種類と状態を記入する。(例: トロミ付きのお茶・牛乳ゼリーなど)</p>	<p>捕 食 時</p>	<p>※18 スプーンが近づくと口を開ける…唇を触るなど働きかけないと開けない場合は「できない」にチェック。 ※19 取り込みの際口を閉じる…上唇と下唇を使って捕食できるか。 ※20 下唇でコップの縁を支える…コップの縁が歯列より奥に行かず下唇で支えられるか。 ※21 中間位保持…食べ物の大きさに合わせて口を開けたまま保持できるか。</p>	<p>咀 嚼 時</p>	<p>※22 (回旋運動) …口の中に取り込んだ食べ物を臼歯に運ぶ動き。または、飲み込む前に食べ物を舌の中央部に移す動き。 ※23 (左右運動) …食べ物がある側の臼歯部へ舌が寄っていくような動き。 ※24 吸啜様(きゅうてつよう) …おっぱいを吸う(口の中を陰圧にして吸う)ような動き。 ※25 舌の先端が挙上する…水分が口の中に入った際、舌の先端を上前歯の裏につける動き。これができない場合は正常な嚥下につながらないため、嚥下後に水分が残ったり外へ流れ出たりする。 ※26 蝶番運動…そしゃく時の下顎の上下運動。 ※27 臼磨運動…臼歯で食べ物をすりつぶす下顎の動き。</p>	<p>嚥 下 時</p>	<p>※28 舌根部が挙上する…嚥下の際、舌の一番奥の部分(舌根)が持ち上がる動き。喉ぼとけが動くことで確認できる。</p>
<p>捕 食 時</p>	<p>※18 スプーンが近づくと口を開ける…唇を触るなど働きかけないと開けない場合は「できない」にチェック。 ※19 取り込みの際口を閉じる…上唇と下唇を使って捕食できるか。 ※20 下唇でコップの縁を支える…コップの縁が歯列より奥に行かず下唇で支えられるか。 ※21 中間位保持…食べ物の大きさに合わせて口を開けたまま保持できるか。</p>						
<p>咀 嚼 時</p>	<p>※22 (回旋運動) …口の中に取り込んだ食べ物を臼歯に運ぶ動き。または、飲み込む前に食べ物を舌の中央部に移す動き。 ※23 (左右運動) …食べ物がある側の臼歯部へ舌が寄っていくような動き。 ※24 吸啜様(きゅうてつよう) …おっぱいを吸う(口の中を陰圧にして吸う)ような動き。 ※25 舌の先端が挙上する…水分が口の中に入った際、舌の先端を上前歯の裏につける動き。これができない場合は正常な嚥下につながらないため、嚥下後に水分が残ったり外へ流れ出たりする。 ※26 蝶番運動…そしゃく時の下顎の上下運動。 ※27 臼磨運動…臼歯で食べ物をすりつぶす下顎の動き。</p>						
<p>嚥 下 時</p>	<p>※28 舌根部が挙上する…嚥下の際、舌の一番奥の部分(舌根)が持ち上がる動き。喉ぼとけが動くことで確認できる。</p>						

食べる機能の発達段階チェック表

記入日 (R 年 月 日)

学部 (小・中・高) 年 組 氏名 ()

記入者 ()

★あてはまる□を■にしましょう

(定型発達) 発達段階	経口摂取準備期 (4ヶ月)	初期 (5~6ヶ月)		中期 (7~8ヶ月)	後期 (9~11ヶ月)	自立期 (12~36ヶ月)	
	哺乳反射の消失 自分の意思で口を動かすようになる	嚥下機能獲得期 口唇を閉じて飲み込むことができるようになる	捕食機能獲得期 上唇と下唇で取り込む動きが出てくる	押しつぶし機能獲得期 しっかり口が閉じる 舌を上顎に押しつけ食べ物を押しつぶすようになる	咀嚼機能獲得期 歯や歯茎ですりつぶす 噛むことができるようになる	自食準備期 手づかみ食べ機能獲得期 食具食べ獲得期 手と口の協調を獲得していく	
各部位の動きの特徴	口唇	<input type="checkbox"/> ほとんど動かない	<input type="checkbox"/> 上唇：あまり動かない <input type="checkbox"/> 下唇：下顎の開閉の動きにつれて活発に動く  (下唇が内側に入り込む)	<input type="checkbox"/> 上唇：食べ物を取り込むうとする動きがみられる	<input type="checkbox"/> 食べ物を取り込む際上唇が下に降り、上唇と下唇で取り込む	<input type="checkbox"/> 上下唇がねじれながら「モグモグ」の動きが見られる  (左右非対称な動き)	<input type="checkbox"/> 口唇・舌・顎が協調して動く
	舌運動	<input type="checkbox"/> ほとんど動かない	<input type="checkbox"/> 前後に動く  (舌の前後運動)	<input type="checkbox"/> 前後に動き、上下の動きも少し見られる	<input type="checkbox"/> 上下に動く 舌の先を上顎に押しつけ食べ物をつぶす  (舌の上下運動)	<input type="checkbox"/> 左右に動く 食べ物を奥歯の上に乗せる  (舌の左右運動)	
	顎運動	<input type="checkbox"/> ほとんど動かない	<input type="checkbox"/> 舌の動きと連動して上下に動く パクパクするような動きかた		<input type="checkbox"/> 上下に動かしてつぶす 食べ物の形状に合わせてコントロールされた動き	<input type="checkbox"/> 左右に動く (すりつぶす側に少しずれる)	

評価した主菜名

()

食形態

初期 中期 後期 普通

特記事項

発達段階評価

- 経口摂取準備期
- 初期 (嚥下機能獲得期・捕食機能獲得期)
- 中期 (押しつぶし機能獲得期)
- 後期 (咀嚼機能獲得期)
- 自立期 (自食準備期・手づかみ食べ機能獲得期・食具食べ獲得期)

★さばのしょうゆあんかけ（押しつぶし・えんげ食）

献立名	段階	材料名	1人分 総使用量(g)	調理法
さばのしょうゆあんかけ	押しつぶし食 ↓ (手元調理で) えんげ下食	魚肉すり身(卵白無し、えそ)	60.00	(作り方) ① 調味料を煮立たせ、あんを作る。 ② 魚肉すり身、牛乳、生クリーム、ソフティアGをミキサーで攪拌する。 ※攪拌しすぎると空気が入ってかたく仕上がるため、注意する。 ④ 型に流し込んで蒸す。 (100℃で20分) ⑤ 配膳してしょうゆあんをかける。
		ソフティアG(すり身の5%)	3.00	
		牛乳	24.00	
		生クリーム	16.00	
		三温糖	0.45	
		本みりん	1.35	
		濃口しょうゆ	2.70	
		でん粉	0.27	
		水	9.00	
			(普通食は7.2g)	



魚ムース

★ご飯 (そしゃく食・押しつぶし・えんげ食)

献立名	段階	材料名	1人分 総使用量(g)	調理法
軟飯	そしゃく食	精白米	50.00	炊きあがりをそのまま配食する。
		水(精白米の3倍量)	150.00	
粒ゼリーがゆ ① ②	つぶ押し食	精白米	50.00	炊きあがりをそのまま配食する。 …①粒大 ロボに入れ、ロボのパルススイッチ(黒)で5回攪拌する。…②粒小
		水(精白米の5倍量)	250.00	
		ゼリー剤(おかゆの1.2%)	3.40	
ゼリーがゆ	えんげ食	精白米	50.00	粒ゼリーがゆ①を粒がなくなるまでロボで攪拌する。
		水(精白米の5倍量)	250.00	
		ゼリー剤(おかゆの1.2%)	3.40	



軟飯



①粒大



②粒小



ゼリーがゆ

【報告事項1】

ワーキンググループ開催報告

	日時	参加者	内容
第1回	令和2年 11月27日 (金)	前田委員 宮園委員 加藤委員 事務局2名	(1) ゼリー食の試行について (2) 今後のワーキンググループでの 検討テーマについて
第2回	令和3年 1月13日 (水)	前田委員 江島委員 事務局2名	形態食の試作 (1) 魚ムース (2) 野菜スープ (3) 牛乳ゼリー
第3回	令和3年 1月19日 (火)	前田委員 知的特別支援学校栄養教諭2名 事務局1名	食に関する指導目標、食育の視点について
第4回	令和3年 1月20日 (水)	浅田委員、松本委員 前田委員、宮園委員、加藤委員 江島委員、重岡委員 学校給食公社管理栄養士 事務局2名	機能評価表の検討

【報告事項2】

今後の進め方について

- ・ 新たな形態食の導入後、実施状況や改善点等については、献立検討会や両校の校内委員会等で共有し、引き続き検討を行う。
- ・ 形態食に関する機能評価や摂食指導については、新たに検討を行う機会を設けるなどして改善に努める。また、将来的には教職員が活用できる手引きを作成するなど、児童生徒に適切な指導が行えるような体制を整備する。